

会場での質疑応答の記録

Q 1 :	なぜ再編をしないといけないのか。
A 1 :	子どもの数が減っていること、学校の施設が老朽化してきていること、老朽化については市の施設全体が同じような傾向にあり、今後すべての施設を建替えていくことは財政的に困難になってきている。そのような中でも子どもの教育環境は充実したものにしていかなくてはいけないことから、どのような形の施設を整備していくのがよいか皆さんの御意見を伺いたいと考えている。通学のバスについては、無尽蔵に導入できるわけではないので、そのことも踏まえて、どこにどのような施設を整備したらよいのかについて皆さんの御意見を伺いたい。
Q 2 :	小中一貫校になった場合、校長先生の人数はどうなるのか。
A 2 :	一貫校になっても、小学校と中学校は別々の学校であるため、校長先生は2名になる。似たような形態で義務教育学校という形態があるが、こちらは小中で1つの学校であるため、校長先生は1人になる。掛川市が目指しているのは前者の形態。
Q 3 :	小中一貫校になった場合のデメリットは何かあるか。
A 3 :	話がよく間違われるのは、大規模校のデメリットをもって小中一貫校のデメリットであると指摘される場合があるが、小中一貫校は必ずしも大規模校ではないので区別して考える必要がある。市としては、再編することで学校の規模を適正な規模にしていきたいと考えている。東中学区の小中学校を1つにまとめると児童数・生徒数が多すぎるマンモス校になってしまうということが問題となる。
Q 4 :	コミュニティースクール（学校運営協議会）のあり方、地域とのかかわりはどうなるのか。
A 4 :	小中一貫校になれば、一貫校に学校運営協議会を設置する。掛川市では、中学校区学園化構想で、中学校区単位で地域と学校が一緒になって子どもを育てていくという取り組みを行っている。地域の教育力を園や学校の教育活動に生かすということで、東中学校区ではキャリア教育の部分で積極的に地域の皆さまにかかわっていただいております。昨年度、文部科学大臣賞を受賞した。新しい学校になっても地域の皆さんに参画していただけるような形を作っていきたいと考えている。
Q 5 :	モデルにしている学校はあるのか。
A 5 :	近いところだと磐田市のながふじ学府、浜松市の中部学園、愛知県の一貫校なども視察させていただいた。それぞれの良いところを良いとこどりで行きたいと考えている。掛川市の場合は、地域生涯学習センターや防災の機能をどう取り込んでいくのか、さきほど学校の備品を市民が使えたら良いなという意見があったが、個人的な意見として、市の備品を学校が使う、市民が使えるようになると良いなと考えている。
Q 6 :	学校の跡地については今後どのように検討していくつもりか。
A 6 :	跡地利用については、地元の皆さんと協議をしながら、学校再編とあわせて検討をしていきたいと考えている。
Q 7 :	小学1年生から中学3年生まで体格差がかなりある。施設の整備や使い方についてはどのように考えているのか。

A 7 :	施設の詳細については、東中学校区で再編を進めましようとなった段階に、意見交換の場を設けて御意見を伺っていきたいと考えている。今回は、市全体の方向性をどうするのかという話をしているので、それがまとまって次の一步を踏み出す時に、また改めて御意見を伺いたい。
Q 8 :	学童はどうなるのか。
A 8 :	学校の中にあるのが一番安心だと考えているが、どれくらいのニーズがあるかを考えると、もの凄く大きな施設が必要になることも考えられるため、どうやって分散させていくのかを改めて考えていく必要がある。
Q 9 :	目標年度はあるのか。
A 9 :	9 中学校区を回って御意見を伺いながら、校舎の老朽度や児童・生徒数の推移、地域の皆さんの思い等を総合的に勘案して順番を決めて、こうやってやっていきますという計画を作って公表させていただきたいと考えている。公表は、9 中学校区を一巡した後になる。
Q10 :	何を大切に再編を進めていくのか。
A10 :	近年の教育の変革が進んでいる。1 人 1 台端末や空調機器の整備などは、数年前には想像もしていなかった。子どもの意見についてはこれから基本構想を策定していく段階で聞いていきたいと考えている。子どもの教育環境を整えていくことは大人の責任だという考えの中で「子どもファースト」という言葉を使っている。どのような環境にしていきたいかというのは非常に難しいが、御意見を伺いながら教育委員会としても考えていきたい。